



～ 未来に残そうふるさとの自然 ～

# 和東の生きもの ハンドブック



## 索引 (50音順)

### ■ あ～お

アオジ	16
アカザ	21
アカネズミ	26
アカハライモリ	5
アズマモグラ	20
アブラハヤ	23
ウグイス	16
オイカワ	4
オオサンショウウオ	23
オシドリ	9
オニヤンマ	14

### ■ か～こ

カジカガエル	8・19
カシラダカ	17
カナヘビ	25
カネヒラ	23
カヤネズミ	20
カルガモ	4
カワガラス	9
カワセミ	9
カワバタモロコ	23
カワムツ	4
カワヨシノボリ	11
キイトトンボ	14
ククガシラコウモリ	20
キセキレイ	9
キツネ	26
ゲンジボタル	8
コガモ	9
コジュケイ	25
コムクドリ	7

### ■ さ～そ

サシバ	7
シマヘビ	5
ジムグリ	20
シュレーゲルアオガエル	21
ジョウビタキ	17
シロマダラ	24
スジシマドジョウ	22
スッポン	22
ズナガニゴイ	22
ゼゼラ	23

### ■ た～と

タカハヤ	11
タヌキ	5
ツグミ	7
ツチガエル	13
ツバメ	7
ドンコ	4

### ■ な～の

ナガレカマツカ	8・19
ナゴヤダルマガエル	23
ナベブタムシ	14
ニホンアカガエル	5
ニホンアナグマ	26
ニホンイシガメ	21
ニホンヒキガエル	24
ニホンリス	25
ヌートリア	11
ヌマガエル	5
ヌマムツ	11
ノゴマ	17
ノスリ	7

### ■ は～ほ

ハグロトンボ	14
ハタネズミ	20
ハンミョウ	24
ヒダサンショウウオ	21
ヒバカリ	25
フクロウ	26
ヘイケボタル	8
ベニシマコ	17
ホオジロ	17
ホトケドジョウ	22

### ■ ま～も

ミナミメダカ	22
ムササビ	22
メボソムシクイ	17
モクズガニ	21
モリアオガエル	21

### ■ や～よ

ヤマカガシ	25
ヤマセミ	9
ヤマネ	20

## はじめに

このハンドブックは、和東町にはどのような生きものが生息しているか、これまでに調査された結果をまとめたものです。その結果、他の地域では見られなくなった生きものが数多く生息していることがわかりました。京都府で初めて発見された生きものや、「絶滅危惧種」などに指定され、保護が必要な大切な生きものたちがたくさん確認されました。それは、和東に数多くの生きものたちを育む豊かな自然環境が残されている証です。

和東に生息している生きものは、リストで確認していただけます。現在の生きものたちがどのように変わっていくかは、今後の調査によってわかってくることと思います。このリストは、和東の生きものを未来に伝える大変貴重な資料と考えています。

和東町の豊かな自然と水辺環境は、多くの生きものを支えています。こうした生きものたちが、郷土の自然財産であることをこのハンドブックを見て知っていただければ嬉しく思います。

令和3年3月

相楽東部広域連合教育委員会教育長 西本 吉生

## もくじ

	ページ
(1) 和東の生きものマップ	2 ~ 3
(2) 和東でよく見られる生きもの	4 ~ 5
(3) 和東にやってくる鳥たち	6 ~ 7
(4) 和東川に生息している生きもの	8 ~ 15
(5) 別所上山の水田跡地に見られる鳥たち	16 ~ 18
(6) 和東で見られる貴重な生きもの	19 ~ 23
(7) 白山神社で見られる生きもの	24 ~ 25
(8) 山に住む生きもの	26
(9) 和東の樹木	27 ~ 32
(10) 和東の生きものリスト	33 ~ 36

## (1) 和東の生きものマップ

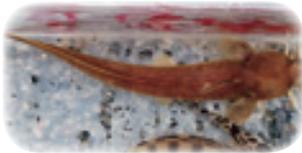
これまでの調査の結果、和東町でしか見られない珍しい生きものや他ではめっ  
たに見られない希少な生きものたちがたくさん生息していることが分かりまし  
た。このハンドブックで和東の生きものたちを知ってもらえればと思います。



湯船



和束川



## (2) 和東でよく見られる生きもの



オイカワ

中流域から下流に普通に見られ、繁殖期にオスは色が変わる。ハエやハイジャコと呼ばれる。



ドンコ

里山の小川を代表する肉食魚。水質のよい環境に生息し、全国的に減少傾向にある。



カルガモ

冬鳥のカモの仲間であって、水田や湿地で繁殖し、13羽も産んだ記録が知られている。



カワムツ

川の中流域から上流に生息する最も身近な魚のひとつで、繁殖期のオスは赤味色になる。



**タヌキ**

夜行性であまり見られない。ファミリーで同じ場所に糞をする。



**ヌマガエル**

水田地帯で最も普通に見られ、ツチガエルと共にイボガエルと呼ばれている。近年、背中に線がある個体も見られるようになった。

**ニホンアカガエル**

全国的に減少傾向にある里山の田んぼの代表である。



**シマヘビ**

様々な環境に生息しているヘビで、カラスヘビと呼ばれる色素変異の真っ黒な個体もいる。



**アカハライモリ**

腹が赤く、水辺や山の湧き水近くでよく見られる。



### (3) 和東にやってくる鳥たち

#### 秋は鳥たちの渡りの季節

春から夏にかけて日本にやっけてきて、繁殖活動をする夏鳥のツバメやサシバは、秋になると寒い冬をこすために、東南アジアに帰っていきます。一方、北方で繁殖したツグミやノスリなどの冬鳥がやっけてきて越冬します。旅鳥であるコムクドリは繁殖も越冬もせず、和東を通過していきます。



春にやっけてくる鳥

#### なぜ渡りをするのか？

インドネシアのジャワ島からくるツバメは約12,000 kmも往復して飛んできます。そこまで苦勞してやっけてくるのは、日本では春になるとエサとなる大量の虫が発生するためです。

#### なぜ迷わず来られるのか？

鳥は、体内に方位磁針をもっていて迷わずやっけてこられます。なかには同じ木にもどってくる鳥もいます。



秋にやっけてくる鳥

## 春にやってくる鳥



コムドリ (旅鳥)

春と秋になると和東町の農地や山地の林を通過する。



ツバメ (夏鳥)

昆虫をとらえて食べることから、田んぼでは益鳥とされている。また商売繁盛の吉兆として歓迎されている。



サシバ (夏鳥)

丘陵地などでカエルやヘビなどを捕食することが知られている。近年激減していて、「ピクチャー」と鳴くことも多い。

## 秋にやってくる鳥



ツグミ (冬鳥)

木の実や昆虫など、様々なものを食べ、地上ではホッピングしながら餌を探す。



ノスリ (冬鳥)

冬は農地や河川敷などで見られ、ネズミやモグラを餌にする。

#### (4) 和東川に生息している生きもの

和東町のシンボルと言える和東川は、鷲峰山系や笠置山系及び滋賀県境の山系を源にしてまちの中央を流れていて、京都府南部では和東川でしか見られないカジカガエル、アカザ、ナガレカマツカなどの生きものが生息しています。



カジカガエルもホタルもきれいな川、手ごろな岩、豊かな緑がある環境が大好きです。



カジカガエル

溪流に生息し、フィー、フィーという鹿のような美しい声で鳴き、京都府南部では和東川しか生息が確認されていない。環境省の日本が残したい音風景100選に選ばれていて、祝橋付近では6月から7月の昼でもよく鳴き声を聞くことができる。



ヘイケボタル

田んぼや周囲の水路に1年を通して水があり、湿っているところに住んでいる。ゲンジボタルがすむ川でも見られる。



ゲンジボタル

和東川に沿って歩けばどこでも見ることが可能であり、柚田水源前、中地区の祝橋付近、湯船地区ではよく見られる。



#### 新種のナガレカマツカ

和東川には、2019年に新種登録された淡水魚「ナガレカマツカ」がいることが2020年に確認されました。「カマツカ」は、これまで1種のみとされていましたが、2019年に別に「ナガレカマツカ」と「スナゴカマツカ」の新種がいることがわかりました。3種は遺伝子が大きく違い口唇、ひげの長さ、胸びれの形状、体の斑紋に違いがあります。



## 和東川にやってくる鳥たち

留鳥は渡りをしない鳥で1年中観察することができます。



**キセキレイ (留鳥)**

セキレイ類の中で最も上流部に生息している。いつも長い尾を上下に振っている。



**オシドリ (冬鳥)**

警戒心が強く、人の姿をみるとすぐに飛んでしまう。ドングリが大好物である。



**コガモ (冬鳥)**

高い声で「ピリッピリッ」と鳴き、お尻の黄色い模様が特徴のかわいいカモである。



**カワガラス (留鳥)**

歩きながら水に潜り、トビケラやカワゲラなどの水生昆虫を捕食する。



**ヤマセミ (留鳥)**

溪流に生息し、魚をダイビングして捕食し、崖地に穴を掘って巣をつくる。



**カワセミ (留鳥)**

空飛ぶ宝石とよばれる野鳥界のアイドル。意外にも民家付近の川岸で見られる。

和東川にすんでいる生きもの





**ヌマムツ**

雑食性で水生昆虫などを食べ、流れの緩やかな河川を好む。

**カワヨシノボリ**

美味しい魚だといわれ、「ゴリ」とも呼ばれ、強引に物事を押し進める語源といわれている。

**ヌートリア**

以前は見られなかったが早朝や夕方複数が観察されている。



**タカハヤ**

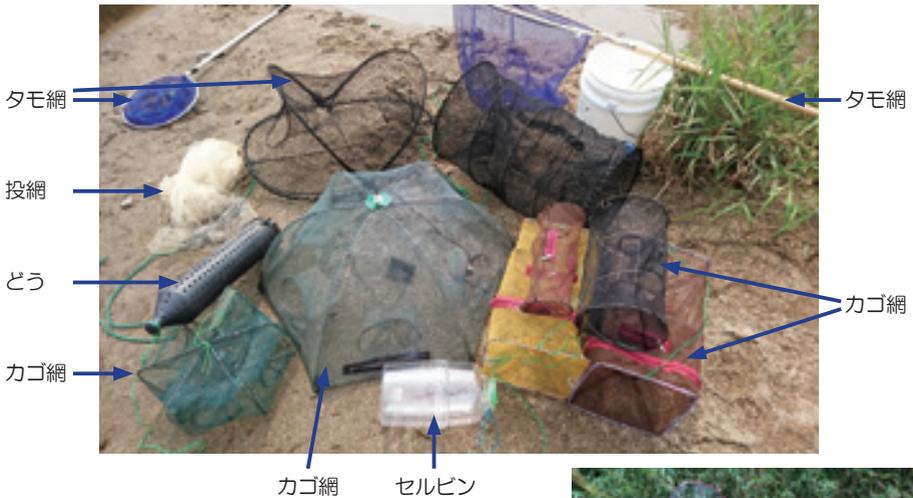
河川の溪流部に生息し、山間部ではわりとよく見られる。食塩で体表のぬめりをとった上で天ぷら、佃煮等にして食べられる。



# 魚の調査



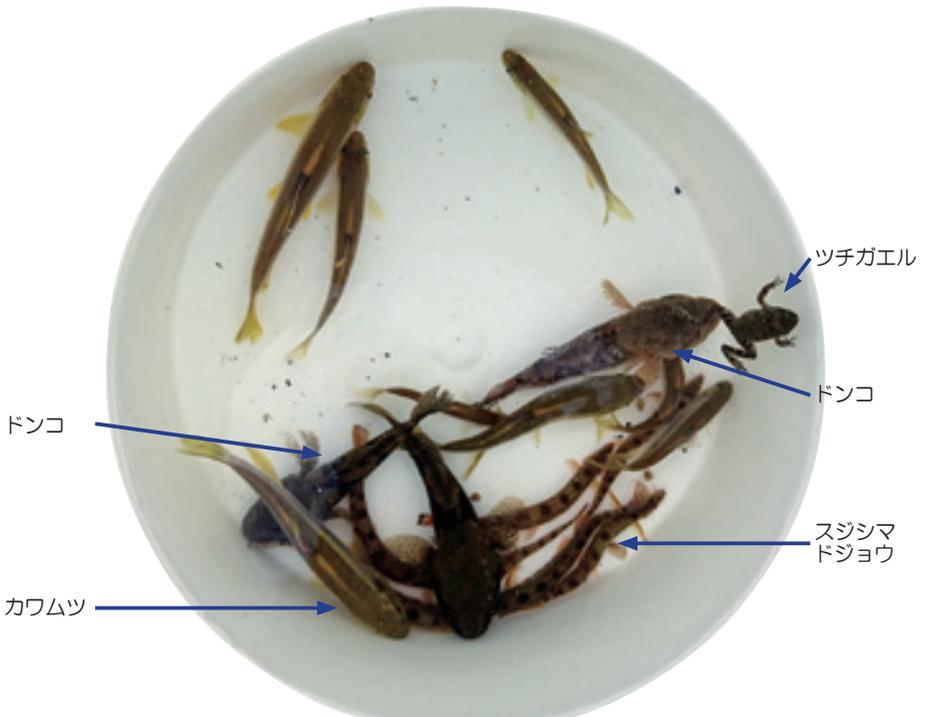
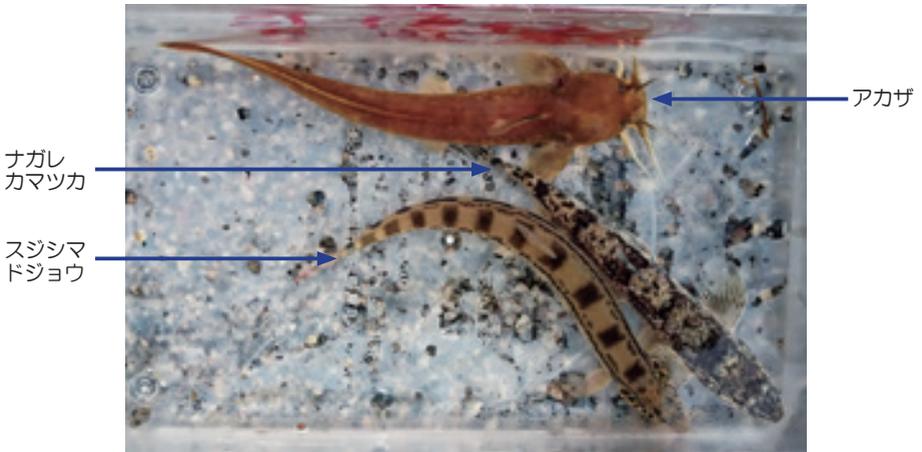
魚の生息環境は魚種によって異なり、流れの速い箇所や水際の植物帯、石と石との隙間などを利用する種類がいます。調査は、このような魚類の生息環境に合わせて主に捕獲によって行います。捕獲するには、季節や生息ポイントにあわせてそれぞれ異なる漁具を使います。捕獲するには投網、タモ網等を使い、他にはえなわ、カゴ網、セルピン、どう等を使います。捕獲調査した結果、和束川には上流部の水のきれいな水温の低い所に生息する魚が多く、流れのない汚れた水でも生息できる下流部に多いフナやナマズなども大変少なく、清流を好む希少な魚類が多く生息していることがわかりました。和束川のように、絶滅寸前種や絶滅危惧種などの貴重な生きものがたくさん生息している川は、京都府下にはほとんどありません。



これらの漁具の使用は、季節や河川により制限や規制があり、注意が必要です。



捕獲した魚は、種ごとに体長や重量等の計測、写真撮影を行います。作業後、魚は放流しますが、必要に応じて記録用にホルマリン個体標本を作製します。



#### ツチガエル

かつては普通に見られたが、激減している。幼生のままで越冬することもあり、変態後はアリを好んで食う。



## 和東川の虫たち

和東川には、水カメムシの仲間であるナベブタムシ、コオイムシ、タイコウチやゲンゴロウの仲間のハイロゲンゴロウ、トンボの仲間としてオニヤンマ、ハグロトンボ、キイトンボ等が生息しています。これらの水生昆虫は、きれいな水でないと生息できません。



### ナベブタムシ

体長は1cm程度で、平たく、特徴的な形をしている。上流域のきれいな川の、砂礫の中にもぐって生息している。



### ハグロトンボ

細長く、黒っぽい翅を持った、ヒラヒラと飛ぶトンボ。翅が黒いところから名前が付いた。河川の岸辺で見られることが多く、住宅地の周辺でも見られることがある。



### オニヤンマ

はっきりした黄色と黒色のしま模様を持つ、体長10センチ程度の日本最大のトンボ。幼虫から成虫になるまで2～3年もかかりトンボの中では最長である。縄張りを持ちパトロールをする。



### キイトンボ

鮮やかな黄色で、腹部がやや太めのイトトンボ。平地や丘陵地、低山地の水草のよく茂った池や沼に生息する。



# タガメ



ナベブタムシやコオイムシと同じ仲間のタガメは、日本最大の水生昆虫です。トンボなどのような蛹の形態をとらない不完全変態型の昆虫で、幼虫の外観は成虫に似ています。タガメは特定第2種国内希少野生生物に指定されています。



タガメは、6月～8月にかけて、植物の茎や杭などに卵を産み付けます。産卵後オスは、卵を外敵から守り、乾燥しないように補水も行います。孵化するまでの間はほぼエサを食べずに世話をします。



水中で脱皮して加令し、5令幼虫までのプロセスを経て成虫になります。

生まれたばかりの初令虫、1匹が獲物を捕らえると、複数の個体が同じ獲物に食いつきます。



- ①：3令幼虫の捕食
- ②：5令虫から成虫への脱皮
- ③：マルガタゲンゴロウの捕食
- ④：マルガタゲンゴロウの蛹
- ⑤：コガタノゲンゴロウの捕食

## (5) 別所上山の水田跡地に見られる鳥たち



ウグイス（留鳥）

春夏は「ホーホケキョ」とさえずることで存在感があるが、意外に姿をみることは難しい野鳥である。鶯色（うぐいすいろ）といわれるが、実際には雌雄とも地味な褐色をしている。

アオジ（冬鳥）

このアオジは2019年11月10日に当地で放した個体（足環番号：2S-00660）で、1年後の2020年11月7日に同じ場所で再捕獲された。冬鳥なので、春から夏に過ごした繁殖地からはるばる和東町に帰ってきたことになる。





**ベニシマコ (冬鳥)**

冬枯れの森林や草原でみられる赤い野鳥で、草の実を好んで食べる。



**ホオジロ (留鳥)**

草原、河川敷、茶畑、水田など、さまざまな環境に生息する野鳥で、簡単に観察できる。



**カシラダカ (冬鳥)**

かつては日本各地でみられた野鳥だが、近年は激減している。和東町ではまだ林縁などに生息している。



**ノゴマ (旅鳥)**

春と秋の渡り時期に和東町に立ち寄る渡り鳥。茂みに潜むことが多く、なかなか姿が見られない。



**メボソムシクイ (旅鳥)**

ムシクイの仲間はどこも姿がよく似ていて見分けが付きにくく、しかも茂みに潜むことが多い。



**ジョウビタキ (冬鳥)**

草原や茶畑、庭先の植木などで見られる。人をあまり怖がらないので観察しやすい野鳥である。



鳥類標識調査とは、野鳥を捕獲用のネットなどで安全に捕獲して金属製の足環をつけて放鳥し、観察や再捕獲によって、その野鳥の移動や年齢などを明らかにする調査のことです。捕獲した鳥類の右足に、届け先・国名・個体識別用の番号（例えば日本ではKANKYOSYO TOKYO JAPAN 2A-12345のようなもの）が刻印された金属リングを装着します。体重や翼・尾の長さなどを可能な限り計測したりして記録に残し、放鳥します。こうして放鳥された鳥が、国内または国外のどこかで再び回収されることによっていつ・だれが・どこで放鳥した野鳥なのかが分かるようになっています。

こうした調査の再捕獲の情報を解析することによって、野鳥の渡りの実態や生態を明らかにすることができます。

## ■鳥類標識調査でわかったこと①

日本で一番長生きをした鳥は、アホウドリの仲間のオオミズナギドリです。1975年5月に京都府の冠島で足環をつけられた個体が、2012年1月にマレーシアのボルネオ島で保護されました。実に36年8ヶ月経過していました。最初に捕獲された時は成鳥だったのでボルネオ島で保護された時点で40歳以上だったと思われます。

## ■鳥類標識調査でわかったこと②

### 新種を発見（ヤンバルクイナ）

1978年から3年続けて種不明の鳥が観察されていましたが、いずれも一瞬の出来事で詳しい特徴は確認できませんでした。1981年に確認するためにこの鳥を捕獲して、足環を付け放鳥し調査をしたところ新種であることが分かりました。ヤンバルクイナと名付けられ、1887年に発見されたノグチゲラ以来ほぼ100年ぶりのことでした。

## ■鳥類標識調査でわかったこと③

マキバタヒバリ、コウライヒクナ、ヒメアマツバなど15種以上の鳥たちは、標識調査によって日本で初めて記録されました。観察しにくい鳥を記録できる標識調査は大変有効です。





**ヤマネ (絶滅危惧種)**

鷲峰山で保護の記録が残っているが、今回の調査では確認できなかった。



**ハタネズミ (準絶滅危惧種)**

かつては農地に穴を開けると駆除されてきたが、希少な野ネズミとなっている。



**カヤネズミ (準絶滅危惧種)**

ススキやカヤなどに、野球のボール状の巣を架けて子育てする小型の野ネズミは、生息環境の悪化に伴って減少傾向にある。



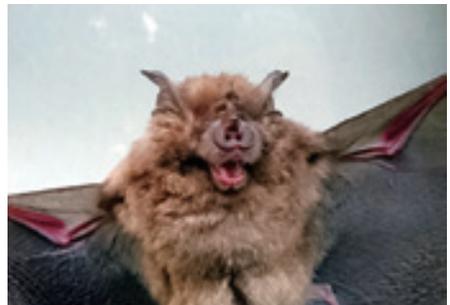
**ジムグリ (要注目種)**

地潜りが語源でめったに見ることができないジムグリは、日本一美しいヘビとして知られている。



**アズマモグラ (準絶滅危惧種)**

関西のコウベモグラに対し、関東に生息するアズマモグラが、鷲峰山で捕獲確認された記録がある。



**キクガシラコウモリ (準絶滅危惧種)**

古い文献記録と共に、近年コウモリの目撃情報があった隧道で、コキクガシラコウモリと共に生息が確認された。



**シュレーゲルアオガエル (要注目種)**

里山の水田の畔などに泡状の卵塊の中に産卵する。目が金色で赤いモリアカガエルと区別できる。



**モリアオガエル**

水辺の樹上に泡状の卵塊を造って産卵し、孵化したオタマジャクシは泡に包まれ落下し、水中生活が始まる。



**ニホンイシガメ (要注目種)**

日本の固有種で、全国的に激減傾向にあり、準絶滅危惧種に指定して国際取引も制限している。



**モクズガニ**

海で産卵し、河川を遡上するモクズガニの語源は、爪のはさみに生えた毛に由来する。中華料理の高級食材・上海蟹の仲間。



**ヒダサンショウウオ (準絶滅危惧種)**

全てが希少種のサンショウウオの仲間であって、流水域に生息し、バナナ状の卵塊を石の下に生む。



**アカザ (絶滅危惧種)**

水温の低い清流に生息するヒレに毒をもつナマズの仲間、他ではまず見ることはない希少種。繁殖期に赤みが増し、名前の由来となった。



#### スジマドジョウ（絶滅寸前種）

絶滅指標が最も高い「絶滅寸前種」に指定され、他ではめったに見られない希少なドジョウの仲間が、ここではたくさん生息している。



#### スッポン（要注目）

木津川に生息するスッポンが、支流の和東川中流まで生息域を拡げている。



#### ムササビ（準絶滅危惧）

白山神社周辺部で、何世代にもわたって生息していることが地元住民への聞き取り調査で判明した。夜行性で観察は難しいものの、繁殖期には大声で鳴く声も聞けるという。



#### ホトケドジョウ（絶滅寸前種）

聞き取り調査によって、希少なドジョウの仲間、絶滅寸前種のホトケドジョウの生息の可能性があることも分かった。



#### ミナミメダカ（絶滅危惧種）

近年、新しい種として独立した絶滅危惧種のミナミメダカは、和東町の水田や用水路などいたる所で観察することができる。



#### ズナガニゴイ（絶滅危惧種）

普段は低層から中層付近にいるが驚くと砂の中に潜る。カゲロウなどの水生昆虫を食べる。



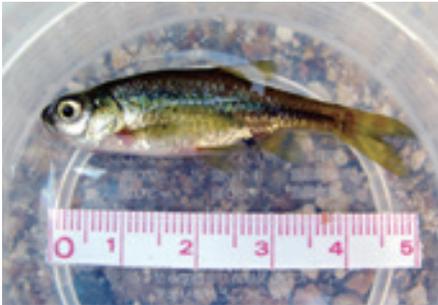
**ゼゼラ（準絶滅危惧種）**

イシクイの俗称で親まれたゼゼラは、近年2種類に分けられた。



**アブラハヤ（絶滅寸前種）**

タカハヤによく似るが縦条を形成する。河川の上流から下流にかけて生息し、雑食性である。



**カワバタモロコ（絶滅寸前種）**

和東町の隣接地の小池で見つかり、生息が期待されている。



**カネヒラ（絶滅危惧種）**

木津川に生息する大型のタナゴが、和東川下流に生息している。



**オオサンショウウオ（絶滅危惧種）**

和東川の文献記録の他、木津川での保護記録はあるが、今回の調査では確認できなかった。



**ナゴヤダルマガエル（絶滅寸前種）**

和東での記録写真が残っている。

## (7) 白山神社で見られる生きもの



### ハンミョウ

昔から「ミチオシエ」と呼んで親しまれてきたきれいな甲虫の仲間である。



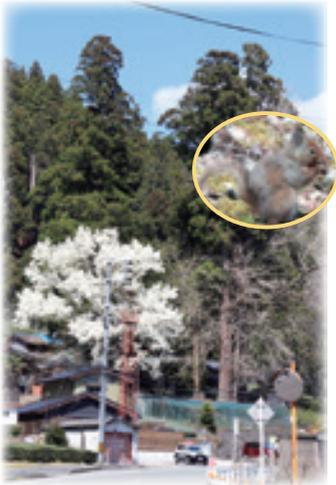
### シロマダラ

幻の珍蛇とされ、2008年4月、京都府で初めて白山神社で見つかり、これまでに計6匹が記録されている。



### ニホンヒキガエル

他ではめったに見られなくなったガマガエルも、白山神社周辺では季節を通して見られる。



### ニホンリス

すばしっこくて、ゆっくり観察する機会はほとんどないが、マツボックリの食痕跡などから生息を知ることができる。



### カナヘビ

最もよく見られるトカゲの仲間で、シッポ切りも行い、本家のトカゲより広範囲の環境に生息する。



### ヒバカリ

水辺でカエルを好んで食べるヘビで、咬まれると「その日ばかり」を語源とするが、無毒であることが分かった



### ヤマカガシ

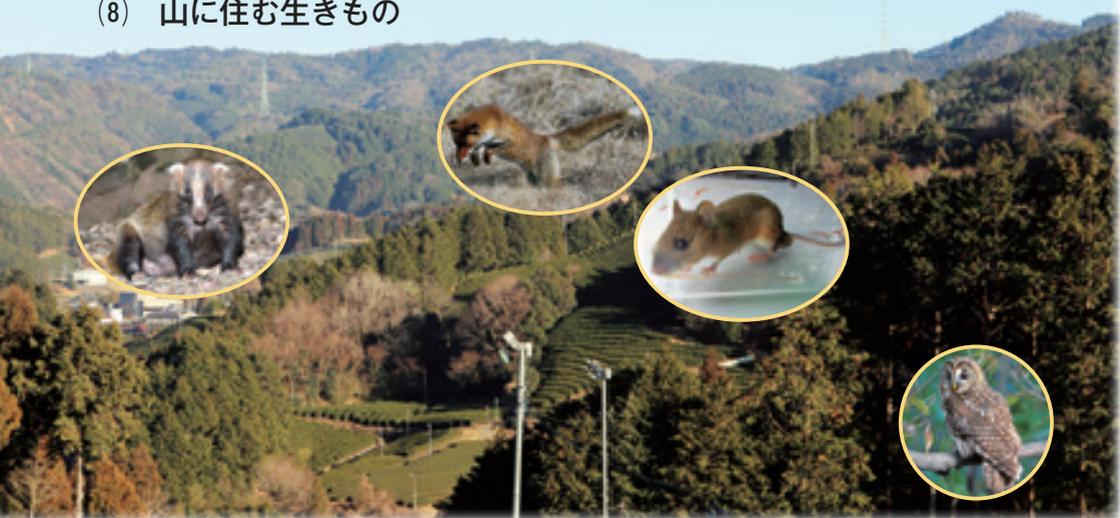
無毒と思われていたが、奥牙からコブラに匹敵する毒液を発することが分かった。個体変異が多く、青いヤマカガシも見つかっている。



### コジュケイ

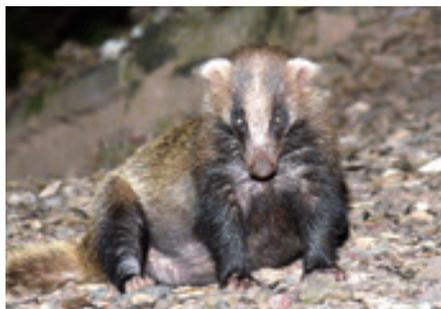
大正時代に中国から移入され、繁殖期にはチョットコイという大声を繰り返す。

## (8) 山に住む生きもの



アカネズミ

日本の野山に広く分布する。1日で数km動く。一夫多妻である。



ニホンアナグマ

足に大きな爪を持ち、穴掘りが得意である。日中は巣穴で過ごす夜行性。



フクロウ

フクロウは、食物連鎖の頂点にある希少生物で、フクロウが生息できる自然環境の保全が求められている。



キツネ

雑食のタヌキに対して、肉食のキツネの生息数は少なく、環境指標も高い。

## (9) 和束の樹木

和束町は、まちのどこからでも豊かな山林をのぞむことができる自然豊かなまちです。鷲峰山の山頂と東方斜面は、「京都府歴史的な環境保全地域」に指定されており、天然林の宝庫です。

### 和束のサクラ



祝橋付近の桜



白栖の桜



西願寺の桜



西願寺の桜



西願寺の桜



石寺の桜



白栖の桜



長井の桜



①②③ 天満宮のシイノキ

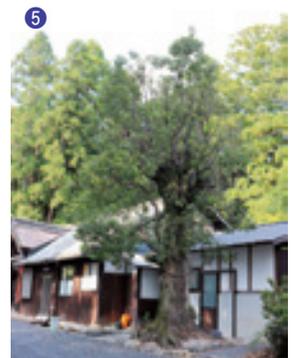


天満宮の春日神社付近のヒノキには、檜皮(ひわだ)を採った後の赤い樹皮が目立つものが多くあります。



神社に杉があるのは？

神は、天から杉の木に降りてくると考えられていたからです。



④⑤ 天満宮のスギ

## 湯船白山神社の樹木



春先の杉とイチヨウ、コブシ



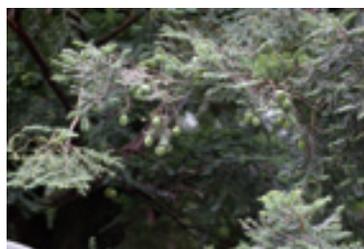
秋の杉とイチヨウ、コブシ

### カヤ

成長は極めて遅く直径1mほどの成木になるには300年、伐採から製品になるまで10年かかると言われ最高級木材のひとつである。カヤの実を食べられ、食用油や燃料油の原料になる。



カヤに寄生した風欄



カヤの実

右のカヤは南北朝時代大智寺開基の大観禅師が百丈山で百日間の座禅をされ、文殊菩薩が空中に現れるのを見て座禅をとき、下山の途中にカヤの実を近くの道に蒔きながら里村に帰った時に芽吹いたうちの一本とされています。



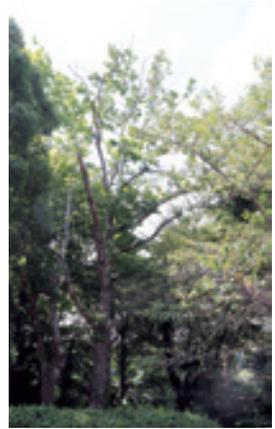
木津信楽線沿いにある南北朝時代のカヤ



下島のクスノキ



八坂の大杉



和東海洋センターのブラタナス



相楽中部消防署和束出張所上のケヤキ



①② 金胎寺宝篋印塔のある山頂付近のツルシキミ



# メタセコイア



生きた化石と言われるメタセコイアの成長は早く、30mほどになります。

1952年～1954年に大阪書籍が教科書を採択した学校に苗木を寄贈する取組みをしたことにより多くの学校に植えられました。その数11,396本だったそうです。



- ①：中和東小学校閉校時
- ②：現在の特別養護老人ホームわらく
- ③：和東海洋センターのメタセコイア（日本有数の巨木）
- ④：特別養護老人ホームわらくのメタセコイア



安積親王墓から見える和東海洋センターと特別養護老人ホームわらくのメタセコイア

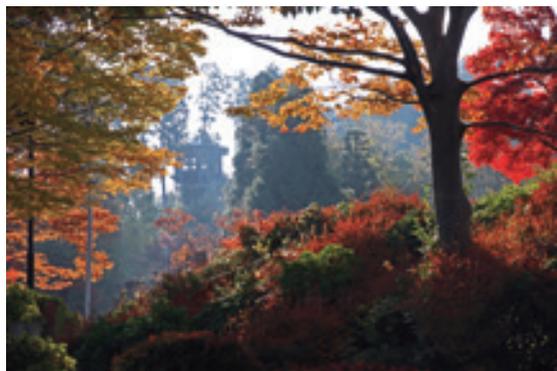
## 和束の紅葉



湯船の水車小屋



正法寺の紅葉



天空カフェの紅葉



正法寺の紅葉



正法寺の紅葉

# (10) 和東の生きものリスト

魚 類		
科	種 名	京都
ヤツメウナギ科	スナヤツメ南方種	●
コイ科	コイ	
	ゲンゴロウブナ	
	ニゴロブナ	●
	ギンブナ	
	ヤリタナゴ	●
	カネヒラ	●
	タイリクバラタナゴ	
	ワタカ	●
	カワバタモロコ	●
	ハス	●
	オイカワ	
	カワムツ	
	ヌマムツ	●
	アブラハヤ	●
	タカハヤ	
	ズナガニゴイ	●
	モツゴ	
	タモロコ	
	ホンモロコ	●
	ゼゼラ	●
	ヨドゼゼラ	●
	カマツカ	
	ナガレカマツカ	
	ツチフキ	●
	ニゴイ	
	ドジョウ科	ドジョウ
オオシマドジョウ		
チュウガタスジシマドジョウ		●
フクドジョウ科	ホトケドジョウ	●
ギギ科	ギギ	
ナマズ科	ビワコオオナマズ	●
	ナマズ	
アカザ科	アカザ	●
タウナギ科	タウナギ	
ボラ科	ボラ	
カダヤシ科	カダヤシ	

魚 類		
科	種 名	京都
メダカ科	ミナミメダカ	●
サンフィッシュ科	ブルーギル	
	オオクチバス	
	コクチバス	
ドンコ科	ドンコ	
ハゼ科	ヌマチチブ	
	カワヨシノボリ	
	トウヨシノボリ類	
タイワンドジョウ科	カムルチー	
出現種類数		19
両 生 類		
サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ	●
	ヤマトサンショウウオ	
オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	●
イモリ科	アカハライモリ	●
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	●
	アズマヒキガエル	●
アマガエル科	ニホンアマガエル	
アカガエル科	タゴガエル	
	ニホンアカガエル	●
	ヤマアカガエル	●
	トノサマガエル	●
	ナゴヤダルマガエル	●
	ウシガエル	
ツチガエル	●	
ヌマガエル科	ヌマガエル	●
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	●
	モリアオガエル	
	カジカガエル	●
出現種類数		13
両爬哺魚類		
イシガメ科	ニホンイシガメ	●
	ミナミイシガメ	●
	クサガメ	●
ヌマガメ科	ミシシippiaアカミミガメ	
スッポン科	ニホンスッポン	●
ヤモリ科	ニホンヤモリ	

● 絶滅寸前種    ● 絶滅危惧種    ● 準絶滅危惧種    ● 要注目種

両爬哺魚類		
科	種名	京都
トカゲ科	ニホントカゲ	●
カナヘビ科	ニホンカナヘビ	
タカチホヘビ科	タカチホヘビ	●
ナミヘビ科	シマヘビ	
	アオダイショウ	●
	ジムグリ	●
	シロマダラ	●
	ヒバカリ	●
ヤマカガシ	●	
クサリヘビ科	ニホンマムシ	
出現種類数		11
哺乳類		
トガリネズミ科	サイゴクジネズミ	●
モグラ科	ヒミズ	
	アズマモグラ	●
	コウベモグラ	
キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	●
	キクガシラコウモリ	●
ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	
オナガザル科	ニホンザル	
ウサギ科	ノウサギ	
リス科	ニホンリス	
	ムササビ	●
ヤマネ科	ヤマネ	●
ネズミ科	ハタネズミ	●
	アカネズミ	
	ヒメネズミ	
	ホンシュウカヤネズミ	●
	クマネズミ	
	ドブネズミ	
ヌートリア科	ヌートリア	
アライグマ科	アライグマ	
イヌ科	タヌキ	
	ホンドキツネ	●
イタチ科	ホンドテン	
	チョウセンイタチ	
	ホンドイタチ	

哺乳類		
科	種名	京都
イタチ科	ニホンアナグマ	
ジャコウネコ科	ハクビシン	
イノシシ科	イノシシ	
シカ科	ニホンジカ	
出現種類数		9
鳥類		
キジ科	コジュケイ	
	ヤマドリ	●
	キジ	
カモ科	オシドリ	●
	オカヨシガモ	
	ヨシガモ	
	ヒドリガモ	
	マガモ	
	カルガモ	
	ハシビロガモ	
	オナガガモ	
	シマアジ	●
	トモエガモ	●
	コガモ	
	ホシハジロ	
	キンクロハジロ	
	ミコアイサ	●
カワアイサ	●	
カイツブリ科	カイツブリ	●
	カンムリカイツブリ	
ハト科	カワラバト (ドバト)	
	キジバト	
	アオバト	●
ミスナギドリ科	オオミズナギドリ	●
コウノトリ科	コウノトリ	●
ウ科	カワウ	
サギ科	ヨシゴイ	●
	ミゾゴイ	●
	ゴイサギ	
	ササゴイ	●
	アマサギ	

● 絶滅寸前種    ● 絶滅危惧種    ● 準絶滅危惧種    ● 要注目種

鳥 類			鳥 類		
科	種 名	京都	科	種 名	京都
サギ科	アオサギ		シギ科	アカエリヒレアシシギ	
	ダイサギ		タマシギ科	タマシギ	●
	チュウサギ	●	ツバメチドリ科	ツバメチドリ	●
	コサギ		カモメ科	ユリカモメ	
クイナ科	クイナ	●		ウミネコ	●
	ヒクイナ	●		コアジサシ	●
	バン		ミサゴ科	ミサゴ	●
	オオバン	●	タカ科	ハチクマ	●
カッコウ科	ツツドリ	●		トビ	
	カッコウ	●		チュウヒ	●
ヨタカ科	ヨタカ	●		ハイイロチュウヒ	●
アマツバメ科	ハリオアマツバメ			ツミ	●
	アマツバメ			ハイタカ	●
	ヒメアマツバメ	●		オオタカ	●
チドリ科	タゲリ	●		サシバ	●
	ケリ			ノスリ	●
	ムナグロ	●		クマタカ	●
	イカルチドリ	●	フクロウ科	コノハズク	●
	コチドリ			フクロウ	●
	シロチドリ	●		アオバズク	●
セイタカシギ科	セイタカシギ	●		トラフズク	●
シギ科	ヤマシギ	●		コミミズク	●
	アオシギ	●	カワセミ科	アカショウビン	●
	オオジシギ	●		カワセミ	
	チュウジシギ	●		ヤマセミ	●
	タシギ		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	●
	オオソリハシシギ	●	キツキ科	アリスイ	●
	チュウシャクシギ	●		コゲラ	
	ツルシギ	●		オオアカゲラ	●
	アオアシシギ	●		アカゲラ	●
	クサシギ	●		アオゲラ	
	タカブシギ		ハヤブサ科	チョウゲンボウ	●
シギ科	キアシシギ	●		コチョウゲンボウ	●
	イソシギ	●		チゴハヤブサ	●
	トウネン	●		ハヤブサ	●
	ウズラシギ	●	サンショウクイ科	サンショウクイ	●
	ハマシギ	●	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	●

● 絶滅寸前種    ● 絶滅危惧種    ● 準絶滅危惧種    ● 要注目種

鳥 類		
科	種 名	京都
モズ科	モズ	
カラス科	カケス	
	ハシボソガラス	
	ハシブトガラス	
キクイタダキ科	キクイタダキ	
ツリスガラ科	ツリスガラ	●
シジュウカラ科	ヤマガラ	
	ヒガラ	
	シジュウカラ	
ヒバリ科	ヒバリ	
ツバメ科	ショウドウツバメ	
	ツバメ	
	コシアカツバメ	
	イワツバメ	
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	
ウグイス科	ウグイス	
	ヤブサメ	
エナガ科	エナガ	
ムシクイ科	メボソムシクイ	
	エゾムシクイ	
	センダイムシクイ	
メジロ科	メジロ	
ヨシキリ科	オオヨシキリ	
	コヨシキリ	
セッカ科	セッカ	
レンジャク科	キレンジャク	
	ヒレンジャク	
ミンサザイ科	ミンサザイ	
ムクドリ科	ムクドリ	
	コムクドリ	●
カワガラス科	カワガラス	
ヒタキ科	トラツグミ	●
	クロツグミ	●
	シロハラ	

鳥 類		
科	種 名	京都
ヒタキ科	ツグミ	
	コマドリ	
	ノゴマ	
	コルリ	●
	ルリビタキ	
	ジョウビタキ	
	ノビタキ	
	イソヒヨドリ	
	エゾビタキ	
	コサメビタキ	●
オオルリ		
イワヒバリ科	カヤクグリ	
スズメ科	ニュウナイスズメ	
	スズメ	
セキレイ科	キセキレイ	
	ハクセキレイ	
	セグロセキレイ	
	ビンズイ	
	タヒバリ	
アトリ科	アトリ	
	カワラヒワ	
	マヒワ	
	ベニマシコ	
	ウソ	
	シメ	
ホオジロ科	イカル	
	ホオジロ	
	ホオアカ	
	カシラダカ	
	ミヤマホオジロ	
アオジ		
クロジ	●	
オオジュリン		
出現種類数		78

京都府レッドデータ2015より

● 絶滅寸前種    ● 絶滅危惧種    ● 準絶滅危惧種    ● 要注目種

絶滅寸前種 京都府内で絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧種 京都府内で絶滅の危機が増大している種

準絶滅危惧種 京都府内で存続基盤が脆弱な種

要注目種 京都府内で生息・生育状況について、動向を注目すべき種及び情報が不足している種

## ■協力（五十音順・敬称略）

※本ハンドブックの作成にあたり写真を提供いただいた方々です。また多くの情報提供者からの協力に感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

## ■写真提供者

伊藤雅信（爬虫類）、岡井昭憲（鳥類）、竹内康（昆虫）、田中寿樹（昆虫・哺乳類）、中川宗孝（全般）、林博之（魚類）、宮村邦俊（樹木）、山中十郎（鳥類・哺乳類・昆虫・爬虫類）、脇坂英弥（鳥類・昆虫）

## ■調査協力者

上西実、岡井昭憲、岡井勇樹、柏木勢二、竹内康、田中寿樹、中川宗孝、西森誉普、林博之、日野田星、福井淳一、松井優樹、水野尚之、水野真理、山村元秀、脇坂英弥

## ■情報提供者

小西逸男、福井忠、松井裕之

# 和束の生きものハンドブック

---

発行日 令和3年(2021)3月

編集 相楽東部広域連合教育委員会 生涯学習課和束町史編さん室  
TEL 0774-74-8952 FAX 0774-74-8953

発行 相楽東部広域連合教育委員会  
〒619-1205 京都府相楽郡和束町大字中小字平田23-1  
TEL 0774-78-4335 FAX 0774-78-4338  
ホームページ <http://www.union.sourakutoubu.lg.jp>

印刷 株式会社 春日

---

※本書の内容について無断転載・複製を禁じます。



**町の木：杉**

まっすぐに生き生きと伸びた杉、木立とその独特の美しさは、和東町が未来に伸びゆく姿勢を象徴しています。

**町の花：お茶の花**

お茶は、町の基幹産業であり、白くふっくらとした花の形は、可憐で見る人の心にやすらぎを与え、まさに和東茶の産地にふさわしい花です。

**町の鳥：きじ**

きじは人々に親しまれ、美麗、勇猛なその姿は、山紫水明の里にふさわしい鳥です。